

中国産生薬高騰の背景

2010年6月9日

株式会社 栃本天海堂

原料部 姜 東孝

2009年に中国産生薬が徐々に中国国内で値上がりし始め、2010年に入って総ての生薬が高騰してまいりました。過去には天候不順などによる豊作不作などによって一部の生薬の価格変動は毎年ありましたが、今回の生薬類一斉値上がりの原因は中国経済発展にともなう人件費の高騰と中国国内の生薬需要増大が大きな要因であります。

特に中国国内の需要拡大が今回の価格高騰の最も大きな要因として考えられ、これは中国の医療制度の改革によるものです。過去は都市部の労働者だけが医療保険の対象であったものが6年位前から徐々に児童や農村部に拡大し、今は全国民の殆どが医療保険の適用を受ける事になってきました。

この医療制度の基本は1000円までを個人負担として、これを超える医療費負担を金額により5~20%に軽減したものであります。医療保険の対象となる医薬品は国家基本薬物目録に定めてあり、第一部西洋薬、第二部中成薬、第三部中薬飲片(生薬)が記載されています。基層医療衛生機構(規模の小さな病院、診療所など)ではこの国家基本薬物目録に定められた品目しか使用出来ない事になっています。

下記に第二部中成薬に記載されている中成薬処方を紹介いたします。

第二部中成薬：

1. 内科用薬に記載された中成薬73処方

「九味羌活丸(顆粒)」「感冒清熱顆粒」「柴胡注射薬」「銀翹解毒丸(顆粒、錠)」「防風通経丸(顆粒)」「玉屏風顆粒」「保濟丸」「藿香正気水」「十滴水」「麻仁潤腸丸(軟カプセル)」「黄連上清丸(顆粒、カプセル、錠)」「牛黄解毒丸(カプセル、軟カプセル、錠)」「牛黄上清丸(カプセル、錠)」「双黄連合剤(顆粒、カプセル、錠)」「銀黄顆粒(錠)」「板藍根顆粒」「護肝錠(カプセル、顆粒)」「茵樞黄顆粒(内服液)」「複方黄連素錠」「附子理中丸(錠)」「香砂養胃丸(顆粒、錠)」「通宣理肺丸(顆粒、カプセル、錠)」「蛇胆川貝液」「橘紅丸(顆粒、カプセル、錠)」「小児消積止咳内服液」「養陰清肺丸」「蛤蚧定喘丸」「清開靈顆粒(カプセル、錠、注射液)」「安宮牛黄丸」「蘇合香丸」「縮泉丸(カプセル)」「補中益気丸(顆粒)」「参苓白朮散(丸、顆粒)」「香砂六君丸」「帰脾丸(合剤)」「六味地黄丸」「知柏地黄丸」「杞菊地黄丸(カプセル、錠)」「金匱腎気丸(錠)」「四神丸(錠)」「消渴丸」「参麦注射液」「生脈飲(顆粒、カプセル、注射液)」「天王補心丸(錠)」「槐角丸」「三七膠囊(錠)」「血栓通注射薬」「血塞通注射薬」「丹参注射薬」「麝香保心丸」「複方丹参錠(カプセル、顆粒、滴丸)」「血府逐瘀丸(カプセル)」「脈絡寧注射薬」「冠心蘇合丸(カプセル、軟カプセル)」「速効救心丸」「地奥心血康膠囊」「通心絡膠囊」「丹樞逍遙丸」「逍遙丸(顆粒)」「気滞胃痛顆粒(錠)」「胃蘇顆粒」「元胡止痛錠(カプセル、顆粒、滴丸)」「三九胃泰顆粒」「保和丸(顆粒、錠)」「川芎茶調丸(散、顆粒、錠)」「正天丸(カプセル)」「松齡血脈康カプセル」「華佗再造丸」「五苓散(カプセル、錠)」「普樂安カプセル(錠)」「癩閉舒カプセル」「疝瘕顆粒(錠)」「血脂康カプセル」

2. 外科用薬に記載された中成薬 7 処方：

「消炎利胆錠（顆粒、カプセル）」「馬兜竜麝香痔瘡膏」 「季徳勝蛇薬錠」 「連翹敗毒丸（膏、錠）」 「如意金黃散」 「排石顆粒」 「内消瘰癧丸」

3. 婦人科用薬に記載された中成薬 8 処方：

「婦科十味錠」 「益母草膏（顆粒、カプセル、錠）」 「婦科千金錠（カプセル）」 「艾附暖宮丸」 「八珍益母丸（カプセル）」 「烏鶏白鳳丸（カプセル、錠）」 「更年安錠」 「乳癖消錠（カプセル、顆粒）」

4. 眼科用薬に記載された中成薬 2 処方：

「明目上清錠」 「明目地黄丸」

5. 耳鼻咽喉科用薬に記載された中成薬 4 処方：

「耳聾左慈丸」 「鼻炎康錠」 「藿胆丸（錠、滴丸）」 「黄氏响声丸」

6. 骨傷科用薬に記載された中成薬 8 処方：

「接骨七厘錠」 「傷科接骨錠」 「雲南白薬（カプセル、膏、チンキ剤、スプレー）」 「活血止痛散（カプセル）」 「舒筋活血丸（錠）」 「頸舒顆粒」 「狗皮膏」 「仙靈骨葆カプセル」

備考：

田三七は上記中成薬の 10 処方に配合されており、中国国内の需要拡大が、最近の田三七の値上がりの主な要因と考えられます。

第三部 中薬飲片（生薬）：

中薬飲片（生薬）は薬材全品目が対象となりますが、例外的に高貴薬材（冬虫夏草等）は除外されません。

今後の生薬相場の動向：

中国の高度経済発展にともない、中国沿岸部と内陸部、都市部と農村部の所得格差が拡大し、低所得者層の不満が非常に大きくなり、政情不安が懸念されています。中国政府は五ヶ年計画で農村部の所得倍増計画を打ち出しており、中国国内の人件費の高騰は避けられない現状であります。また、所得増にともなう医療需要の増大は生薬需要増にもつながり、生薬価格は上昇せざるを得ない状況であります。

現在の生薬相場は一部には売り惜しみ、買占めなどの投機的要素も見受けられますが、生薬価格の底上げは決定的であり、短期的には高値安定で推移すると思われれます。

品目により 30%～300%の価格上昇が起こっており、医療用生薬においては、薬価内での提供ができない品目も多く出ることが予想されますが、生薬原料の確保、供給には万全を期しております。

値上り幅が大きく、自助努力だけでは生薬価格の上昇を抑えることはできませんが、現時点では生薬原料の確保が最優先でありますので、供給面では不安のない様に努力させていただきます。